

## 平成26年度 第6回 教育研究評議会議事概要

日 時 平成26年8月6日（水）10:30～12:40

場 所 事務局特別会議室

出席者 別紙のとおり

### 議 題

#### 1. 教育学部の改組について

（議題1の別紙）

学長及び理事（総務・財務担当）から、ミッションを早期に達成するための教育学部改組について、前回資料をより詳細にし、総数630名を確保することを前提に、入学定員の数値を仮設定した旨、資料に基づき説明があった。

学長から、8月末に開催する臨時教育研究評議会で工程表とカリキュラムを提示する予定なので、今回は、選修制の見直しの方向性を確認したい旨、発言があった。

（選修制見直しと教職教育院について）

評議員から、以下のような意見等があった。

- ・ 附属学校実習における指導は、選修制を前提に高度な教科指導が行われているが、選修制が廃止されるならば、それに併せてクラス担任制での指導に改めるべきではないか。
- ・ 学長の意向による平成25年度入学生からのカリキュラム改革の成果を待たずに、無関係な選修制廃止をするのは、混乱が起きるのではないか。
- ・ 教員採用率が上がらないのは、他大学の状況を見ても、選修制に起因するものなのか疑問がある。
- ・ 講座毎に取り組んでいる教員採用率向上の取組がどのように継承されるのか不明であり、実施する方からすれば、あまりにも抜本的に変わりすぎる。
- ・ 英語教育選修に関しては、東京オリンピックに向けて小学校高学年における英語専科教員の充実に向かっている。この状況で選修制が廃止された場合、初等の学生にあまねく英語教育をする英語習得院だけでは専科教員は育たず、さらに就職率が低下する可能性がある。その他の教科においても世界に誇る授業研究は、教科を中心に行われているのであり、この案は時代に逆行していないか。
- ・ 教職教育院の構想は良いと思う。しかし、選修制廃止には反対者が多い。折衷案として選修制廃止に同意する選修は一括とし、選修制維持を求める選修はそのまま存続させ分けて実施したらどうか。
- ・ 教職教育院の構想では業務が多すぎるので、教職教育院のスタッフは企画立案を中心にし、実施は全教職員が行わないと業務が回らないのではないか。
- ・ 改革の内容が明確に理解できるよう、急ぎコア・カリキュラムの作成、提案をしていただきたい。
- ・ 英語習得院や教職教育院といった名称は、教職大学院等と混同し、わかりづらいのではないか。名称は再検討できないか。

学長及び附属学校部長から、実習方法については、一部の附属小学校では既に選修教科以外での査定を行っているが、選修制廃止により実習も変更が必要だという意見はもつともであり、対応したい旨、発言があった。

学長から、以下のような発言があった。

- ・ 平成25年度カリキュラム改革と選修制見直しの関連については、平成25年度の改革は、最低限すべきことであり、学生の教育現場での実践力を付ける、授業科目を精選するという方針は変わらずに、今回改革を加速させるということである。
- ・ 教員採用率と選修制の相関については、他大学等との比較が問題ではない。他大学と本学では教員の意識と責任感が違うと感じている。
- ・ 小学校における専科教員の育成は、当該講座で必要な科目を立案し、カリキュラムを組んで

いただくことで対応できるのではないかと。

- ・教職教育院は、30名程のスタッフでの実施を考えているが、業務方法については、検討したい。

学長及び事務局長から、一部選修制を残すことについては、そのような案は文部科学省には通じない。6月の文部科学省の面談では、教員採用率が上がっていない現状では、本体である教員養成課程の組織改革抜きでは学部の見直しはできないと言われているのに、変更なしや折衷案ということでは説明できないと考えている旨、発言があった。

(単位及び免許について)

- ・卒業必要単位を128単位としているが、小学校教員免許一種と中学校教員免許二種を取得するための単位であれば、大学設置基準による卒業要件の最低取得124単位でよいのではないかと。
- ・初等教育教員養成課程の標準的取得免許は、小学校一種、中学校二種ではなく、どちらも一種としていただきたい。
- ・中学校教員免許を取得するには、1年生から専門科目を履修しないと、4年生で履修すべき科目が増え、採用試験に悪影響を及ぼす恐れがあるので、それを考慮したカリキュラムを組む必要がある。

学長及び理事(総務・財務担当)から、以下のような発言があった。

- ・現行の最低取得単位である128単位をそのまま残した案としているが、124単位でも検討の余地はあると考える。
- ・部局長会議でも議論があったとおり、どちらも一種を標準として取得できることは、入学後の進路をぶれさせることになると考えている。取得できる免許の数ではなく質の高さで本学を選んでもらえるようにし、必要であれば各自で一種まで取得してもらえればよい。科目をスリム化すると共に、専門科目履修において3・4年生に負担をかけない方策は、これから検討していく必要がある。

(ゼミ及び研究力育成)

評議員から、以下のような意見等があった。

- ・ゼミは、教科専門性を高めるとあるが、教職科目での設定は考えていないのか。
- ・学生には、教員となつてからの研究力を、卒業論文を書かない場合は、どこでどのように身に付けさせるのか、もう少し精選して検討いただきたい。

学長から、以下のような発言があった。

教職科目のゼミ設置も想定している。ただし、卒業研究とゼミは必ずしも一体ではないと考えている。研究力育成が必要であることは同意見であり、ゼミでの指導の充実を想定している。

(芸術学科について)

評議員から、選修制を廃止後も、初等教育教員養成課程で美術・音楽のゼミが選択できるのであれば、現在の芸術課程、初等・中等教育教員養成課程の入学定員の総数84名を芸術学科に設定するのは多すぎるのではないかと。就職を考慮すると、教員養成課程の方に定員を残すべきではないのかとの意見があった。

理事(総務・財務担当)から、芸術学科の定員について、次のような発言があった。

- ・現在の初等教育教員養成課程の音楽・美術選修の学生は、必ずしも教員を志望していない状況があることから、教職を前提としない芸術学科に定員を移している。定員数は、教育研究評議員会の議論によっては減らすこともありえるが、教員養成の学生定員は増やさないとという全国的な流れの中で文部科学省と協議すること、総数630名を保持することを検討した結果の数字であることを理解いただきたい。
- ・現在の本学の教員就職率で、音楽・美術の定員を初等教育教員養成課程に入れた場合、教員採用率85%を達成することの確たる方策の説明が難しい。

(特別支援教育教員養成課程について)

評議員から、以下のような意見等があった。

- ・かつて中等教育教員養成課程にあった定員10名の実践学校教育コースは、人数も多くカリキュラムが組めないとの理由で廃止となった経緯があるが、特別支援教育教員養成課程の15人を中等の基礎免許にすることは、カリキュラム的に実際に可能なのか。
- ・特別支援教育講座としては、現在の就職状況からも、中等に15人は多く、初等35人は少なすぎると感じる。

学長及び理事（総務・財務担当）から、以下のような発言があった。

中等における特別支援教育教員の増員は、教員養成の質向上に関する諮問会議の議論の中で、要望として出ていた意見をいただいたものである。今回の改革においては特別支援教育教員養成課程も何らかの見直しをする必要があるため、提案をした。実施が難しいということであれば、講座からもアイデアをいただき、見直す必要がある。

(教授会説明等について)

評議員から、以下のような意見等があった。

- ・改革案は、教授会での審議事項としていただきたい。
- ・教育研究評議会で議論し、了承するとしても、実際に教育に携わる教員に理解してもらうために、是非学長・役員から、教授会等での説明をお願いしたい。

学長から、以下のような発言があった。

改組案の議論は、教授会でなく教育研究評議会でやるべきものである。また、全学への説明については、全体の組織の改革案が決まっていない状態ではできないことから、改革案をまとめる12月頃に行うつもりである。それより早い時期の説明が必要であれば検討するが、教授会での事前説明が必要であるならば、教育研究評議会で審議をふまえて教育学部長に行っていただきたい。

審議の結果、選修制の見直しの方向性が確認され、詳細については継続とした。

ただし、評議員のうち喜多、森、坂本、三谷、平尾、笹山評議員の6名の反対があり、以下のことについて、記名による記録が求められた。

- ・三谷、坂本評議員から記名投票が求められたが、学長から原則投票を行わない運営方針である旨、発言があった。
- ・笹山評議員から、カリキュラム、教職教育院の形を確認する前に、見直しの方向性を了承することはできないので継続とすべきとの意見があった。

その他

#### 1. 次回の開催日程について

次回の会議を、日程照会のうえ、8月下旬に臨時開催することとした。

## 説明資料等

議題 1 の別紙

- ・福岡教育大学のミッションを早期に達成するための教育学部改組について（案）
- ・教育学部改組（入学定員）について（案）

議題 1 の資料 1

- ・福岡教育大学において養成すべき人材の在り方について（中間報告）（平成 26 年 7 月 31 日付・教員養成の質向上に関する諮問会議）